

**「清水ミライ自分ごと化会議」からの
20 の提案**

「清水ミライ自分ごと化会議」実施概要

■委員・清水町職員・コーディネーター・ナビゲーター

無作為に抽出し会議委員の案内を送付した数	2,000 件
応募した委員(応募率)	51 人(2.5%)

参加委員	有澤 徹雄	有澤 輝彰	石井 照江	有働 知美	太田 和雄
	大林 敏朗	小笠原 敏子	奥秋 康子	小田 勝也	角川 みどり
	風間 真理	梶 幸雄	梶本 凌佑	栗原 恭子	高田 光
	櫻井 雄一郎	佐々木 郁子	佐藤 大介	佐藤 夏紀	佐藤 ゆきこ
	白川 千昭	鈴木 静恵	鈴木 康功	世良田 竜平	世良田 航
	高橋 雅典	高橋 美津子	高橋 裕次	竹中 靖晃	玉井 里菜
	十川 隆好	友安 伸	中河 睦	永田 英理	中田 祐樹
	名須川 信子	刃金 詩帆美	刃金 秀明	秦 なが子	藤井 駿太
	藤田 幸男	前田 侑良	牧 進	松岡 優徳	三好 浩司
	森 智教	山本 司	山本 次男	横山 はる美	吉田 宝生
	吉野 文子				

※50 音順にて記載

○清水町企画課

・前田 真 ・川口 二郎 ・田村 幸紀 ・木村 翔 ・桂井 那津未 ・中澤 優人

○十勝の未来を考える自治体職員の家

<コーディネーター、兼ナビゲーター>

・香田 裕一（幕別町職員）
 ・藤谷 満伸（大樹町職員）
 ・渡辺 浩二（芽室町職員）

○構想日本

<コーディネーター>

・伊藤 伸（構想日本 総括ディレクター）

<ナビゲーター>

・中田 華寿子（構想日本 理事） ※第5回のみ参加

<事務局>

・川岸祐仁（構想日本 プロジェクトリーダー）
 ・谷 幸樹（構想日本 プロジェクトリーダー）

■テーマ及び各回の議論

○第1回会議:2019年9月1日(日) / テーマ「食と農業」

- ・全体会:清水町の食・農業の現状、課題、取り組み
- ・分科会:テーマについて議論
- ・全体会:各班での議論の報告、全体議論

○第2回会議:2019年10月5日(土) / テーマ「文化とスポーツ」

- ・全体会:前回の振り返り、テーマ(文化とスポーツ)についての説明
- ・分科会:テーマについて議論
- ・全体会:各班での議論の報告、全体議論

○第3回会議:2019年12月1日(日) / テーマ「立地と交通アクセス」

- ・全体会:前回の振り返り、テーマ(立地と交通アクセス)についての説明
- ・分科会:テーマについて議論
- ・全体会:各班での議論の報告、全体議論

○第4回会議:2020年2月12日(水) / テーマ「少子高齢化と情報発信」①

- ・全体会:前回の振り返り、テーマについての説明
- ・分科会:テーマについて議論

○第5回会議:2020年6月27日(土)・28日(日) / テーマ「少子高齢化と情報発信」②

※この回よりオンラインと対面での混成開催

27日:少子高齢化班を午前午後の2班に分け開催

28日:情報発信班を午前午後の2班に分け開催

【分科会】

- ・オンライン会議の進め方、前回の振り返り、テーマについて議論

○第6回会議:2020年7月18日(土) / テーマ「少子高齢化と情報発信」③

- ・全体会:前回の振り返り、提案書の説明
- ・分科会:テーマについて議論
- ・全体会:各班での議論の報告

○第7回会議:2020年8月31日(月) / 「まとめ」

- ・全体会:総合計画の全体構成について、これまでの振り返り、提案書の説明、議論

以下の 20 の提案は、私たち会議参加者が、6 回にわたって議論してきた内容や、各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

【食と農業】

提案

1. 住民が農業や農業の情報に触れる機会を増やして、清水の最大の強みである農業（酪農）や食の特徴をさらに認知してもらう

提案

2. 常に後継者を育成できる環境づくりを行う（新規就農をしやすいするなど）

提案

3. 地産地消を拡大することによって清水の食の魅力をさらに広める

提案

4. 食の先進地として、食育の重要性を伝える

提案

5. 農業の多面的機能の観点できれいな農村環境の維持に向けての対策を行う

【文化とスポーツ】

提案

6. 子どもの頃から第九を歌えるという特徴をさらに町内に浸透させ、第九をはじめとした文化活動の実施・支援体制を強化する

提案

7. 80 年の歴史があるアイスホッケーの町としての知名度を活用し、競技人口が減らないための対策を行う

提案

8. 文化ホールやアイスアリーナなどの維持管理を進める一方で、利用人数の少ない施設を見直すなど、メリハリを付けた施設運営を行う

【立地と交通アクセス】

提案

9. 高速道路のインターチェンジがあること、JRの特急が止まることで札幌にアクセスしやすい利点をさらに活かす

提案

10. 通過点ではなく目的地となるような場所（車中泊できる場所など）の設置やイベントを企画（清水公園の活用など）する

提案

11. 特に高齢者の移動手段を確保できるよう、今ある手段（コミュニティバス、清水帯広線バス（高校スクールバス回送利用）、買物銀行送迎バスなど）をゼロベースで見直す

【少子高齢化】

提案

12. いま以上に子どもを産み、育てやすい環境（空気）を作る。特に障がいを持つ親子を町全体で支える体制づくり

提案

13. 若い世代が十勝に戻りたいと思ったときの受け皿（働く場）作りとともに起業して戻ってきやすい環境を用意する

提案

14. 未就学児や小学校低学年の子どもたちが外で遊べる（遊びたいと思える）環境を整備する

提案

15. 地域で高齢者を支えられるよう、これまで以上に町内会や近所付き合いが活発になるための方策を考える

提案

16. 清水町の充実した医療福祉制度を町内外に知らしめるとともに、「形作って魂入らず」にならないよう中身の一層の充実も図る

【情報発信】

提案

17. 情報発信を、行政と住民との重要なコミュニケーションツールと位置づけ、情報の伝え方などに関する方針を定める

提案

18. まちの中にある魅力の掘り起こしと、その魅力をさらに磨き上げるための体制や仕組みを作る

提案

19. 情報発信をきっかけとして、清水の未来をみんなで考え、それぞれの立場でまちづくりに関わり続ける

【その他】

提案

20. 上記の提案項目の実現において、人口減少や税収減など、清水町の財政状況を十分に勘案しながら進める

【食と農業】

提案

1. 住民が農業や農業の情報に触れる機会を増やして、清水の最大の強みである農業（酪農）や食の特徴をさらに認知してもらう

十勝一を誇る酪農や、全道、全国グランプリの常連にもなっている牛玉ステーキ丼や牛トロ丼、そして食料自給率 2000%を超える清水の農業や食は最大の強みである。ただし、具体的な特徴を知っている人は意外に少ない。何が強いのか、なぜ強いのかを多くの住民が答えられれば発信力も高まる。これまで以上に住民が農業に触れる機会や農業に関する情報を目にする機会を増やすことで、すべての住民にとって農業を身近にする。

「提案 1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち 町民

- ① 清水有機など農業の良さを勉強し、「農業の町」という意識を持てるようにする。
- ② 農業体験の機会を提供する。農業体験などに積極的に参加する。
- ③ 野菜等自分で作れる物は作ってみる。
- ④ 仕入れの際に、特徴やおすすめの料理方法等を教えてもらう。
- ⑤ 明治乳業のものなど乳製品を購入する。
- ⑥ 生乳生産量十勝一であることをもっと周知するために自分でも行動を起こす。
- ⑦ 自分の目、耳、口で清水町の農業・食を実感する。
- ⑧ 清水の良い物を多くの人に知ってもらう、知人に話す。
- ⑨ 贈答品に活用することで、本州の知人にも「清水ブランド」を PR する。

地域

- ① 各農家が協力して農業の宣伝や積極的に体験等を受け入れる。
- ② 生乳生産量十勝一という強みをどんどん PR していく。
- ③ 子供達にもっと体験できるような場を提供する。
- ④ 耕畜連携を更に進め、持続可能な農業地帯とする。
- ⑤ 農業・食×宿泊・旅行の企画を旅行会社に提案してみる。

行政

- ① 酪農や農業の体験の企画を行う（生産者と地域住民との橋渡しをする）。
- ② 町内の小売もしくは直売出来る場所を拡大・助成する。
- ③ 清水の酪農の強さを PR する場を増やす（インターネットの説明など）。
- ④ 子供たちの体験の場を提供することに支援する。
- ⑤ 農業に携わっていない町民も農業や食の強みを実感できるように、それぞれの立場の人に合った形でメリットを提供する。（例：規格外の野菜を安価に購入、年に一度無料でアスパラの配布など）。

2. 常に後継者を育成できる環境づくりを行う(新規就農をしやすくするなど)

他の自治体に比べると、後継者がいる農家が多い。しかし、それが持続可能とは言えず、高齢化に伴う離農も出ている。他方で、新規就農を求める町外の人もいるので、まずは外の人が入り込みやすい雰囲気醸成しつつ、新規就農しやすい制度も今後検討していく。

「提案 2」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

**私たち
町民**

- ① 家族経営に限界を感じている人は意思表示をする。
- ② 新規就農希望者を探し、体験してもらう。
- ③ 就農を志す人たちへ受け入れ態勢を整備する(住宅等の福利厚生)
- ④ IT技術を用いて農業という仕事を可視化する。

地域

- ① 町外に出た人への対策として住みやすい、戻ってきやすい地域をつくる。
- ② 酪農や農業において体験の場所を提供する。
- ③ 地域間で情報交換・交流を充実させる。
- ④ 農業法人化に向けた話し合いを進める。
- ⑤ 農作業を体験できる体制を充実させる。

行政

- ① 外国人の受け入れや子供達が体験する機会を作る。
- ② 農業のメリットやデメリット、成功体験などをPRする。
- ③ インターネットで新規就農に関する情報を配信する。
- ④ 長期で体験できるよう住居等を支援する。
- ⑤ 就農希望者と農地所有者のマッチング機能を強化する。
- ⑥ 乳価の安定へ努力する。
- ⑦ 6次産業化への支援をする。
- ⑧ 畑作、畜産、酪農の多方面に対して補助する。

3. 地産地消を拡大することによって清水の食の魅力をさらに広める

清水の食は全国のグランプリを取るほど有名であるにもかかわらず、清水の産品を口にする機会が少ないという声が多くあった。中の人に食の魅力を実感してもらうことはとても重要なので、様々な方策で地産地消の比率を高めていく。

「提案 3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち 町民

- ① 規格外であっても販売所があれば買う。
- ② 町内産、道内産を選ぶ。町内の飲食店に行く。
- ③ 清水産のものが販売されている場所を把握する。
- ④ 町で何が作られているのかを知り、それを食べるようにする。
- ⑤ はね品などを地元で工夫した料理にしてみる。
- ⑥ 牛玉ステーキ丼などを食べられる場所を教える。
- ⑦ 牛玉ステーキ丼を家庭で手軽に作れるようなレシピを考案する。

地域

- ① 地域で料理教室を開き町内産の農作物を PR する。
- ② 道の駅や地元のレストランなど、町民にとって身近でお得な情報を発信する。
- ③ 贈答品として遠方に送やすく、贈られた方も嬉しい仕様を考える。
- ④ 「清水ブランド」を食べられるイベントを開催する。
- ⑤ 町内会や各種団体の会合で勉強会をする・地元のものを PR する。
- ⑥ 軽トラ市等、自らが作った農産物の直売の機会を増やす。

行政

- ① 学校や保育所等の給食への地元品の使用割合を増やす。
- ② 規格外品の買取を助成する。
- ③ 農業や食が身体や環境に及ぼす影響や予防など知識を普及する。
- ④ 広報誌等で特集を組んで地元の食材・料理を PR する。
- ⑤ 畜産物を地産地消できるようにする（流通の組み立てや生産）。
- ⑥ 各生産者の取組を後押しする。都会の人に農業体験を PR してはどうか。農産物の旬の時期、美味しい食べ方、歴史背景、生産者の想いなどを知る機会を増やす。

《その他の意見》

- ① 「牧場のソフト」のように気軽に立ち寄る事のできる場所でスナック的提供が良い。
- ② 町内の消費をいかに増やしていくかが安定的売上につながるのではないかと。

4. 食の先進地として、食育の重要性を伝える

食は清水の強みだという意見が会議の中でも非常に多かった。この強みをさらに活かすにあたって、バランスの取れた食生活など「食育」にも力を入れていくことが良いのではないかと。それによって、さらなる食の先進地になっていく。

「提案 4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち 町民

- ① 朝食の大切さを認知する。
- ② 家族全員で食事を楽しむ時間を大切にする。
- ③ バランスの取れた食生活を心がける。少しでも調理に手をかける。
- ④ 家の中や庭でも作れる野菜やハーブを調べて作ってみる。

地域

- ① 生活習慣病の予防対策を地域として推進する。
- ② 食育や野菜づくりセミナーを開催する。

行政

- ① すべての町民が朝食を食べることを目標とする。
- ② 食育推進計画を積極的に推進する。それらを住民に周知する。
- ③ 大人になった時に清水の給食が美味しかったと思えるように、おいしい給食を維持する。
- ④ 道内外の人でも景色のいい場所で野菜を作ってみたい人はいるはずなので、市民農園のように趣味程度で手軽に野菜を育てられる場所を作る。

«その他の意見»

- ① 親の食に対する認識が不十分で甘いものを取りすぎたり、バランスが悪かったり、子供の食生活に不安がある。
- ② 食の分野での十勝地域の町村との連携を強力にしていく。
- ③ 食育により健康な体、免疫力のある体が作られ、健康寿命を延ばす。

5. 農業の多面的機能の観点できれいな農村環境の維持に向けての対策を行う

農業は、食料を供給すること以外に、自然環境の保全やきれいな景観の形成、文化の伝承など多くの機能を持っている。このことをこれまで以上に意識しながら、農家だけでなく住民みんなが常に農村環境をきれいにするための工夫を行う。

「提案 5」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

**私たち
町民**

- ① 自分の農地を常に整理しておく。
- ② 個人所有の林を整備することの大切さを理解する。
- ③ 明渠、暗渠等の維持管理をする。
- ④ 廃屋、廃作業機等を整理し、農村環境の維持・保全を図る。
- ⑤ 家畜排泄物を適正に管理し、糞尿散布による異臭に気をつける。

地域

- ① まわりの景観に注意を払う。
- ② 手入れの行き届かない林を把握し業者、行政に相談する。

行政

- ① 家畜排せつ物を監視し、バイオガスプラントの建設に助成する。
- ② 森林の適切な管理を呼びかける。
- ③ 森林の防犯対策上の安全性を把握する。

【文化とスポーツ】

提 案

6. 子どもの頃から第九を歌えるという特徴をさらに町内に浸透させ、第九をはじめとした文化活動の実施・支援体制を強化する

昭和 55 年の文化センター完成記念として、ドイツ語で第九を歌ったことをきっかけに、保育所や幼稚園の子どもでも第九が歌えるのは清水の貴重な文化。この灯をさらに広げていくために第九をはじめとして文化活動にさらに力を入れていく。

「提案 6」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

私たち 町民

- ① 第九に興味を持ち、学ぼう、深く知ろうとする。
- ② 学校等で第九を学ぶ機会を増やす。
- ③ 子どもも大人も合唱などに積極的に参加してみる。
- ④ 文化活動に興味を持ち、積極的に参加する。
- ⑤ 文化センター大ホールのイベントを知る(大ホールをもっと使う方が良い)。

地域

- ① 第九に触れる機会を作り(歴史、物などの展示)、第九のすばらしさを地域としても子どもたちに伝えていく。
- ② 合唱コンテストや小中高生が集まって第九を歌うイベントを企画する。
- ③ 第九のルーツであるドイツの文化やドイツ語に触れる機会を作る(ドイツは気候が十勝に似ているので親和性があるのでは)。
- ④ 町内会や各種団体、サークルと文化、芸術での連携や活動を支援する。
- ⑤ 地域としても第九の町であることや文化センターを PR する。
- ⑥ 空き店舗を利用したギャラリーを運営する。

行政

- ① ポスターや展示品の設置など第九に触れることが出来る機会を作る。
- ② 5年ごとの第九の演奏会をもっと頻繁に行ったり一般住民による合唱のイベントなど第九関連の事業を増やす(気軽に参加できるイベントがあると面白い)。
- ③ 行政が旗振り役になる。実行委員会や第九関連の担当課の設置を検討する。
- ④ 子どもの頃から第九が歌えること、少年団活動を通してドイツとの交流の機会があることなどを PR する。
- ⑤ 文化センターや図書館などでの各種文化活動の開催を支援する。
- ⑥ 町内の文化系のイベントをとりまとめて、広報の協力をする。
- ⑦ 幼稚園や小学校からの教育を続けていく。
- ⑧ 創作場所等の提供や支援(絵画や陶芸館は創作にスペースがあるので)。

7. 80年の歴史があるアイスホッケーの町としての知名度を活用し、競技人口が減らないための対策を行う

清水高校アイスホッケー部は全国大会の常連校であったり、アイスアリーナを存続させるために住民がNPO法人を作って運営を行うなど、清水とアイスホッケーは密接につながっている。競技人口が減少しつつあるが、「する」だけでなく「見る」という視点でさらに町内でアイスホッケーが盛り上がるための方策を考える。

「提案7」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

**私たち
町民**

- ① 自分がアリーナに行って試合観戦する。
- ② アイスホッケーの魅力について自分も知り、周囲に発信していく。
- ③ 子どもがアイスホッケーをするにあたって、親に理解を得られるよう働きかける（親が消極的との意見がある）。

地域

- ① アイスホッケーのさらなる知名度向上にはアリーナが不可欠なので、アリーナ維持への理解を示す(アリーナをうまく活用する方法を検討する)。
- ② 地域でアイスホッケーに関するイベントを考えてみる。
- ③ 気軽にアイスホッケーを体験できる機会を作る。
- ④ 一部の人だけでなく、多くの人に伝わるよう努力する。

行政

- ① アイスホッケー団体やアイスホッケー教室開催を支援する。
- ② アイスホッケーの他地域からの留学を積極的に受け入れる。
- ③ 学校の授業に再び取り入れる。
- ④ 道外や海外旅行者へのPR方法を考える。
- ⑤ 広報紙に載せる機会を増やしたり、メディアを利用したりする。
- ⑥ アイスアリーナを使って、他の市町村との交流をサポートする。
- ⑦ PRとバックアップ(職員が自覚することで住民に好影響を及ぼす)。

《その他の意見》

- ① アイスホッケーのゆるキャラをつくる。
- ② 地域・NPOが本気になれば、行政はその後押しができる。
- ③ 広報でアリーナの使用料の告知を行う。

8. 文化ホールやアイスアリーナなどの維持管理を進める一方で、利用人数の少ない施設を見直すなど、メリハリを付けた施設運営を行う

第九の合唱が生まれた文化センターと、公式戦が行われるほど立派な施設であるアイスアリーナは町内のシンボル施設と言ってよい。この2つをさらにシンボルとしながら、利用者の少ない他の公共施設は廃止や利活用拡大などの見直しを行い、メリハリをつけた施設運営を進める。

「提案8」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

私たち町民

- ① 使える施設はとことん使う。催し物に積極的に参加するなど施設をもっと利用する。
- ② 受益者負担として使用料を負担する。
- ③ 年間数百人しか使われていない社会教育施設はどのような施設なのかを知る。
- ④ 郷土史料館の場所が分からないので把握する。

地域

- ① 利用者の少ない社会教育施設の有効利用を考える。
- ② 団体で利用する機会が増えるように地域交流を増やす。
- ③ 千年の森周辺の町民向けツアーを組んでみる。
- ④ 建物の修繕箇所等の調査をする。
- ⑤ 地域で交流会をするなど、さらに交流を増やしていく

行政

- ① 安心・安全第一かつ効率化を考えた施設整備をする（維持管理は大変だと思いが良く整備されている）。
- ② 体育館は利用しやすいようコンパクトにして維持管理費を減らす。
- ③ 利用者の少ない社会教育施設を使ったイベントを多く開く。
- ④ 郷土史料館の鍵を常に開けて入館しやすくする。
- ⑤ 利用回数の少なくなった建物等、廃止の検討を行う。
- ⑥ 千年の森でロックフェスティバルのようなイベントを検討する。

«その他の意見»

- ① 文化、芸術の発展に関心を持つためにも、以前は行っていたイベントを復活させるなど、コンサート等の開催を検討して欲しい。

【立地と交通アクセス】

提案

9. 高速道路のインターチェンジがあること、JRの特急が止まることで札幌にアクセスしやすい利点をさらに活かす

車でも鉄道でも、札幌に行きやすいことはとても大きなメリットであるが、まだまだそのメリットを活かしきれていない。提案 10 のソフト面の充実のほか、高速道路や JR がさらに使いやすくなるよう、それぞれの事業者に働きかけを行う。

「提案 9」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち 町民

- ① どれだけの人が高速道路を利用しているのか少しでも理解する。
- ② トラック運転手の休憩ポイントになっていることを理解する。
- ③ 札幌方面、釧路方面は高速道路を利用する。しかし、たまには JR も利用してみる。
- ④ 土日割引料金を上手く使う。
- ⑤ 交通アクセスの利点である JR の活用をさらに考える。
- ⑥ 本数は少ないが、十勝清水駅を積極的に利用する（利用したいが時間が合わない）。
- ⑦ 運転本数増加や駅舎の階段について、JR や行政に意見を伝えていく。

地域

- ① ただの通り道で終わらず、町に寄ってもらえるように看板を立てるなど工夫する。
- ② 地域として JR に改修を要請する。

行政

- ① 道の駅のようなスポットを作ることを検討する。
- ② 高速 IC の合流の 2 車線化や旭川方面の開通を要望する。
- ③ 利用者の意見を聞き、ニーズを調べる。
- ④ 今後、町外への交通アクセスは最低でも現状を維持する。
- ⑤ バリアフリー化を今後も JR へ要望するのか、町で改修するか協議を続ける。
- ⑥ レンタカーを手配できるようにすることで JR の利用者を増やす。

10. 通過点ではなく目的地となるような場所（車中泊できる場所など）の設置やイベントを企画（清水公園の活用など）する

道東の玄関口であることや JR の特急が停車するという強みをさらに活かすためには、清水にあるモノやコトを目的になることが非常に重要になる。都会とは違う価値を提供するための工夫を、行政、企業、住民が一体となって行っていく。

「提案 10」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち
町民

- ① 町外の人に良い観光スポットを教える。
- ② 町の店で買い物をする（静月など）。
- ③ 清水公園の良い所（景色など）を同じハッシュタグを使って SNS で発信する（自分の SNS アカウントならすぐできる）。
- ④ 千年の森に実際に行ってみて発信する（一度も行ったことがない）。公園など、キャンピングカーでの車中泊ができる場所が町内にあるのかどうかを調査する。（あれば SNS で発信する）。
- ⑤ 民泊や車中泊について研究会を作る。

地域

- ① 祭りなどの出店やイベントへ参加することで店のアピールをする。
- ② 民泊の可能性を探って、ノウハウを蓄積できるようなグループ作りを検討する。
- ③ 車中泊が出来る場所を広める。

行政

- ① 町民の意見を聞きながら、道の駅の早期設置を検討する。
- ② 観光スポットを都会へインターネット等で PR する。
- ③ 地域への波及効果も考えながら、地域と事業者などの連携を主導する。
- ④ 食のツアーを旅行会社と企画する。さらに、食のイベントなどを連続で開催し、町外から来た人を一定期間滞在させるような仕掛けをする。
- ⑤ イベント時の駐車スペース確保のために、離れた場所からバス送迎をするような工夫を行う。併せてトイレの整備を行う。
- ⑥ 町外の人に清水公園に来てもらえるように、イベントや軽トラ市などを開催する。
- ⑦ 清水公園で四季を活用したイベントの企画や、写真コンテストやパークゴルフ大会、BBQ 大会などを開催する。
- ⑧ 宿泊事業をしている人を継続してバックアップできる体制を作る（車中泊や清水公園付近でのオートキャンプで滞在日数を増やしてもらう）。
- ⑨ 車中泊出来る場所のマップを作成して発信する。

特に高齢者の移動手段を確保できるよう、今ある手段（コミュニティバス、清水帯広線バス（高校スクールバス回送利用）、買物銀行送迎バスなど）をゼロベースで見直す

高齢者の移動手段が少ないという課題がある一方で、行政が行っているコミュニティバスはあまり乗っていない。地域や民間企業も一緒になって高齢者の足の確保を考える必要がある。現状をさらに把握したうえで、今後のあり方を考える。

「提案 11」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち
町民

- ① 年齢とともに移動が難しくなるので、公共交通を利用する。
- ② バス停の場所を調べ、自転車や徒歩で行く場合のルートを確認する。
- ③ 町民としてどのようなニーズがあるか行政に伝える。
- ④ 買い物に行くときに、近所に交通手段のない高齢者がいれば乗せてあげる。
- ⑤ 公共交通に関する行政の取組みを知り、周りとの情報を共有する。
- ⑥ 自分の近所にどのような高齢者がいるかなど、身の回りの現状を把握する。
- ⑦ 自力で行ける時は良いが将来は公共交通を利用になる可能性が高いので、今のうちから対策を考える。

地域

- ① コミュニティバスの存在を周知する。
- ② 地域で催し物をする際に、コミュニティバスを利用した場合の経路などを記載することで利用しやすくする。
- ③ 買い物に乗せていくなど近所同士の助け合いが当たり前の雰囲気をつくる（お互いが近所のことを気にする意識づくりを行う）。
- ④ 送迎のある医療機関を PR する。

行政

- ① コミュニティバスなど今行っている事業の実態調査（使いやすさ、利用者増のための工夫など）を行った上で、利用方法の見直しを図る。
- ② コミュニティバスや他の移動手段をまとめた冊子や広告を多くして周知する。
- ③ バスの台数やバス停を増やして、バスの運行状況を広げることを検討する。
- ④ 車以外の移動手段の魅力を広める（例：Co2 削減、良い景色を見られる等）。
- ⑤ 「買物銀行バス」、コミュニティバスの利用方法の拡大を検討する（帯広の病院までの拡大、「買物銀行バス」の病院や公共施設への運行など）。
- ⑥ 運転免許返納後のタクシーチケットの配布事業を周知する。
- ⑦ 医療機関が運営するバスに町民の自宅付近まで送迎してもらえよう要望する。

【少子高齢化】

提案

12. いま以上に子どもを産み、育てやすい環境（空気）を作る。特に障がいを持つ親子を町全体で支える体制づくり

清水町の子育て支援は充実していることがわかった。制度はある程度出来上がっているの
で、あとは育てやすい環境づくりをこれまで以上に作る事が重要になる。特に障がいを
抱える子を持つ親子への理解はまだまだ不十分なので、当事者だけでなく町民全体で支え
るシステム作りが必要。

「提案 12」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち 町民

- ① 町民が子育てについての清水町の強みの部分を知る。
- ② 子どもを産む病院が限られているため、検診や出産できる病院を把握しておく。
- ③ 子どものいる親は、自分が子どもの頃と状況が変わっていることを理解する。
- ④ 夫婦の人生設計や子どものことを考えてみる。
- ⑤ 出産に立ち会うなど、夫婦で出産するようにする。
- ⑥ 発達障がいなど障害者に対して理解し共感する。

地域

- ① 子どもを地域で育てるという意識を持つ。支援できることを探す。
- ② 産み育てたいと思えるよう隣近所との関係をよくする。
- ③ 人が集まらず子ども会が成り立たないところもあるので、地域としての子ども
のための活動を増やす。
- ④ 障がいを持つ子どもの、地域としての見守り体制をつくる。

行政

- ① 子どもを持ちたい人へのさらなる支援を検討する。
- ② 産科のある病院の情報を提供する。
- ③ 助産師や産婆などを清水に呼び、自宅でも産める体制を検討する。
- ④ 発達障がいやひきこもり、不登校等への理解の促進のための啓蒙活動を行うなど、
個々のケース対応を十分に行い、つなげていく支援を推し進める。
- ⑤ 子育て、教育、就労、福祉など他職種とのつながりを主体的に深める役割を担う
(行政はもっとつなぎ役に徹することが重要)。

《その他の意見》

- ① 子どもを産まない選択肢もある。
- ② 複雑な時代の中で、生きづらい思いをしている人も多いと感じている。
- ③ 子育ては大人も人として育てる。人を育てることは人と人のつながりを強くする。

13. 若い世代が十勝に戻りたいと思ったときの受け皿（働く場）作りとともに起業して戻ってきやすい環境を用意する

十勝に残りたい、一度外へ出て戻ってきたいと考える町民は少なくない。しかし、働く場がないことで離れる人もいる。一方で求人はあるので、働きたい人と働いてほしい側のマッチングを進めていく。また、都会で力を付けて起業して町に戻ってくる人が増えるような環境をつくる。そのぐらいに長い視点で考える必要がある。

「提案 13」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

私たち町民

- ① 自分で清水町や十勝の、農業も含めた就職先を調べる。
- ② 小さな町での住みやすさ、地域とのつながりの良さなどを子どもたちに伝える。
- ③ 個人商店や地元企業の利用を進める。

地域

- ① 求人が多くあることを若い世代に伝えていく。
- ② コミュニティビジネスの研究。

行政

- ① 商工会とも連携して企業と求職者のマッチングを進める。
- ② 町外にいる学生に清水町での就職情報をもっと周知する（札幌で学生をしている子供が地元で就職したいと思っているが、情報を得る方法がわからない）。
- ③ 清水町に会社をつくるメリットや農業の強さを PR する。
- ④ 清水町出身者が実力を付けて、清水で起業したくなる空気を作る。
- ⑤ ブロードバンド環境整備など、起業のためのインフラ整備・助成制度をつくる。
- ⑥ 教育現場との連携をとる。

《その他の意見》

- ① 町内企業は若者を積極的に採用する。
- ② 農協が農地を管理することを検討する。企業としての安定雇用が必要。
- ③ 子育てしやすくても（制度が充実していても）仕事をする場がなければ生活できない。

14. 未就学児や小学校低学年の子どもたちが外で遊べる（遊びたいと思える）環境を整備する

公園の遊具の老朽化についての意見が多くある一方で、外で遊ぶ子どもが年々減少しており、整備しても子どもたちは遊ばないのではという懸念の声もあった。ターゲットを幼児から小学校低学年に絞ったうえで、子どもたちが安心して外で遊べるよう整備しつつ、遊具に限らず子どもたちが遊びたいと思えるような魅力づくりを考えていく。

「提案 14」の実現に向けて、それぞれが行うこと

- | | |
|-------------------|--|
| 私たち
町民 | <ul style="list-style-type: none"> ① 遊具など整備が必要だと思うところは役場に伝える。 ② 公園のそばを通る時に意識して見たりして、施設の状況を把握する。 ③ ごみの片付けなど公園をきれいに使う。 ④ 個々の家庭でゲーム利用などへのルールをつくる（「ゲーム＝悪」でない）。 |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ① 放課後の地域の連携を強化し、外で遊ぶ子どもたちを見守る。 ② 各町内会にある公園のごみ拾いなどに併せて、遊具の確認をして役場に報告する。 ③ 遊具（ボール等）を提供する。 ④ 子どもたちと高齢者との交流の機会を作る。 |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ① 公園利用（整備してほしい遊具など）に関する町民の意識調査を行う。 ② 監視カメラの設置など安全性を向上させる（今の公園は電気が暗い）。 ③ 遊具が老朽化しているので、修理や新設して子どもたちが楽しめる遊具を増やす。 ④ 閉園する第 1 保育所を子どもの遊び場にすることを検討する。 ⑤ 子供がスマホを持つ危険性を町民に注意喚起する。 |

《その他の意見》

- ① 子どもは外で遊びたがっているが、ゲーム機を与えるからゲームで遊ぶ。ゲーム機がなければ工夫して遊びを作り出す力を持っている。その力を大人(親)が潰しているのではないか。
- ② 子どもの減少により同年代が少ないので、遊びの発明が必要。
- ③ コロナによって高校生の居場所がなくなっていることに留意する必要がある（ハーモニープラザの席の減少など）。
- ④ 農村部、または町内会を限定しない児童公園の整備をしてはどうか。

15. 地域で高齢者を支えられるよう、これまで以上に町内会や近所付き合いが活発になるための方策を考える

高齢化による担い手不足や、少子化による子どもを通じた集う場の減少などによって、地域コミュニティが衰退している。そうすると、高齢者を地域で支えることも難しくなってしまう。また、以前からいる住民と転入者のコミュニケーションが不十分との声もあった。町内会への加入をはじめとして転入者も含めた地域のつながりを強くするために、行政と住民が一緒になって対策を考えていく。

「提案 15」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

**私たち
町民**

- ① 町内会の行事などに自ら積極的に参加する。近所付き合いを大切にする。
- ② 自分でできることは自ら行い、できないことは民生委員や行政に相談する。
- ③ 自分の家の周りに気を配って、草刈りや除雪を行えるよう普段からコミュニケーションを図る。
- ④ 子どもにつながるの大切さを伝えていく。
- ⑤ 認知症の方の対応や介護の仕方など少しでもいいので知識を持つ。

地域

- ① 町内会などに誰でも入りやすい雰囲気をつくる。町外からの転入者などに対して壁をつくらないようにする（互いに歩み寄る）。
- ② 声掛け、見守りなど、行政の行き届かない部分を地域として行う。
- ③ デジタルの活用などによって高齢者と子どものコミュニケーションの場をつくる。
- ④ コミュニティの核（声掛け役）となる人を探し続ける（手伝う人は多い）。

行政

- ① 町内会加入のメリットの提示のサポートを行い、町内会活動や地域に関わることの動機づけを行う。
- ② 地域の困りごとを取りまとめ、医療、介護、福祉事業所など必要な機関に繋げるための橋渡しをする。
- ③ 行政職員も積極的に地域の活動に参加し、住民一人ひとりの状況を今まで以上に把握できるような仕組みをつくる。
- ④ 地域のリーダーの掘り起こしを行い、地域のつながりの必要性を広げていく。
- ⑤ 行政主催のイベントを増やして、人の繋がりをさらに活性化させる。

《その他の意見》

- ① 行政はできない理由ではなく、どうすればできるかを考え積極的に行動してほしい
- ② 困っていることに気づく、困っている人を助ける、困っていることを言える力を育てる。

16. 清水町の充実した医療福祉制度を町内外に知らしめるとともに、「形作って魂入らず」にならないよう中身の一層の充実も図る

今の清水町には充実した医療福祉制度（特に子ども関連）がそろっているが、そのことがあまり知られていない。今の取組みを町内外にPRすることが、清水町の課題である少子高齢化の改善にもつながるし、町民がより住みやすいと感じてくれることにもつながる。また、形（制度）だけでなく中身がさらに充実できれば、選ばれる町になる。そのためには、制度作りだけで終わらず継続して有効に活用できる体制作りが重要。

「提案 16」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

私たち町民

- ① 現在あるサービスを把握する。
- ② 子育てしやすい町であることを個人的にアピールする。
- ③ 知人に制度の充実度を話す。

地域

- ① 地域の行事に参加する回数を増やし、そこで情報共有をする。
- ② どのようなサービスがあるかを一覧などにして地域に掲示する。
- ③ 地域で独居老人などを見守る意識を育て、必要としている人に情報が届くような環境づくりをする（口コミの力）。

行政

- ① 現行サービスを維持し、全国にこの充実度をアピールする。
- ② サービスについて簡単に知られるよう工夫する。
- ③ 担当者が変わってもサービス内容が変わらないことに気を付ける。

【情報発信】

提案

17. 情報発信を、行政と住民との重要なコミュニケーションツールと位置づけ、情報の伝え方などに関する方針を定める

行政からの情報は、住民にうまく届いていないことが会議の中で見えてきた。情報は住民との重要なコミュニケーションの手段でもあるので、単に「伝える」ではなく住民に「伝わる」情報発信になるよう、情報発信に関する方針を企画課が中心となつてつくる。

「提案 17」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち 町民

- ① 個人の SNS で写真などを載せる。
- ② 自分でも工夫して情報を調べる。WEB サイトや広報誌などのモニターになる。
- ③ 広報誌を読むなどして、受信者側の必要な情報を提案する。
- ④ 自分が好きなこと、興味があることで自由に仲間を集めて発信し、共有する。

地域

- ① 地域行事の写真やイベント情報等を役場などで定期的に張り出してもらう。
- ② 町民から出た意見をまとめて、町に伝える。
- ③ 同じ考えや、サークル仲間などの集団で活発に活動する。
- ④ 町内会を通して、町民の声を役場に届ける仕組みをつくる。
- ⑤ 星を観測できる場所やバーベキューのできるレンタルスペースを設置する。

行政

- ① 行政として周知したい内容など行政内の情報発信の体系を整理し、町民や町外の人への情報の伝え方の考え方や方針を策定する。
- ② 情報を受け取る人のニーズを把握する努力をする（職員が町内会などに参加し対面で情報交換するなど、双方向に情報が行き交う仕組みや機会を増やす）。
- ③ ホームページ等の構成の工夫をする（内容だけでなくターゲット別にデザインする、時系列と分野別で同時に発信して後からわかりやすくするなど）。
- ④ 地域や年代などによって情報格差が生まれないように工夫する。
- ⑤ 非常時と日常の情報発信の方法を変えていく。
- ⑥ 今後のデジタル社会の未来を見据え、新たな情報発信方法の開発など、情報発信のインフラ整備を進める。
- ⑦ 先進的と言われる自治体の事例を学ぶ。
- ⑧ メディアや企業等と連携して発信する。

«その他の意見»

- ① 毎月のお知らせ版など情報は充実している。

18. まちの中にある魅力の掘り起こしと、その魅力をさらに磨き上げるための体制や仕組みを作る

清水にあるたくさんの魅力を、町の中にいると気付いていないことも多いことが今回わかった。まちの魅力探しができるような仕組み、体制を作る。また、どれだけ情報の出し方がうまくなっても中身の魅力が薄れてしまっても意味がないため、清水の資源を常に磨き上げることに留意する。

「提案 18」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

私たち町民

- ① 「国マガ」というローカルフリーペーパーのように、お知らせだけでなくエッセイやコラムなど、個人で噛み砕いたものを作ってみる。
- ② 友達に清水町の良いところを話していく。
- ③ 自分たちが、もっと清水町の魅力を知る機会を設ける（子どもから大人まで）。
- ④ キャッチーな分かりやすい清水町の魅力（象徴）のフレーズを考える。
- ⑤ 町民ライターが清水マガジンを取材・編集し、魅力と人を見つけて伝える。

地域

- ① 町内会や職場（大小を問わない）でリサーチに協力する。
- ② そこに住む人の日々の営みや積み上げてきた歴史・文化を発信していく。

行政

- ① 行政から発信する WEB 媒体や印刷物に、町民目線の町の魅力等を載せる。
- ② 専門的な人たちのインタビューをしたりして、良さを話してもらい、紹介をどんどんしていく。
- ③ 町内外に清水町を応援している人を探す。（ふるさと納税など含む）
- ④ 「星と夜空を見る会」設立にむけた研究会を立ち上げ、ニーズやプログラムの検討、マッピング等情報の整理をする。

19. 情報発信をきっかけとして、清水の未来をみんなで考え、それぞれの立場でまちづくりに関わり続ける

それぞれの立場で情報を発信することは、町のことをさらに知ること、ひいては「自分ごと化」することにつながる。すべての住民が自分ごと化するために、「住民みんなが情報を発信する町」を目指せると良いのではないか。

「提案 19」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち町民

- ① 清水の「いいこと（とこ）探し」をして、写真やメール・投書などをする。
- ② 無理せず自分のペースで参画する。
- ③ 総合計画策定後もそれぞれの立場で、楽しくまちづくりに関わる。

地域

- ① 町内会や職場、有志が関心を持てるように「自分ごと化瓦版」を作成して、各戸に配ったり、社員や従業員に配布する。できれば、その反応をフィードバックする。
- ② 他者の事情を尊重しあう。参加しない、できないことに寛容でいる。

行政

- ① 「清水のいいことフォトコンテスト」などを実施し、集まった写真を活用して、パンフレットやリーフレット、WEB コンテンツ、広報誌などを作ることで「一緒に創った感」を共有する。
- ② 学校で、清水町の未来について考える取り組みを自由に考えて実践する。その取り組みを町が取り上げて紹介する。
- ③ 計画の策定後も（この会議が当初の目的を果たした後も）引き続き住民参加型の場を開き続ける。
- ④ 自分ごと化会議の機会・手法を多く、広く取り入れる。

《その他の意見》

- ① 情報発信というと、上手な人をイメージしてしまうかもしれないが、町が税金を使って行うことなら、そのハードルを限りなくなくす方向がよいと思う。

【その他】

提案

20. 上記の提案項目の実現において、人口減少や税収減など、清水町の財政状況を十分に勘案しながら進める

清水町に限らず全国どこの市町村も、少子高齢化や税収減によって財政状況は必ずしも良いとは言えず、家計同様、常にお金のことは意識をする必要がある。ただし、今回の提案はお金をかけるだけではなく、お金をあまり使わずとも実現が可能なこともある。自分ごと化会議の第1回で紹介された「小さくしながらいかに質を高めるか」の考えのもとで行政は提案の実現を目指す。私たち住民もそのための協力をしていく。

「提案 20」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち 町民

- ① 今回のような会議があれば引き続き参加する。
- ② 財政についてもっと勉強する。

地域

- ① 役場の職員を招いての財政などの勉強会の検討。

行政

- ① 町の財政状況をよりわかりやすく伝えるための工夫をする。
- ② 自分ごと化会議を継続実施する。
- ③ お金をかけること以外に提案項目の実現を考える。
- ④ 新たな生活様式のなかで、今回オンライン会議を行ったように、前例がなくても常に新たな手法を取り入れながら行財政改革を進める。

□その他の個別の意見

- ・ 駅前の商店街に活気を取り戻すために、店舗等の貸出の検討や、町のホームページに情報をより多く掲載する。
- ・ 要望を集めて、国や通信会社等に要望し町内に高速通信網を整備する。
- ・ 高齢者にやさしいボランティア活動の場を提供してほしい。
- ・ 清水と御影で一緒に出来ることを見つける（よりまとまるとよい）
- ・ 自分の地域では町内会で三世代交流会をしており、他でも広まってほしい
- ・ アイスホッケーに特化し過ぎているように思う。他のスポーツも盛んであることのアピールや他のスポーツへの協力も必要ではないか。
- ・ フロイデを買い戻して、野外音楽ホールや音楽自習、研修室、スキーや陸上のスポーツ合宿所として利用する
- ・ 今の高齢者はまだ高齢者と呼べないのではないか。80 歳～85 歳くらいからを高齢者としても良いくらいみんな元気になっている。行政も住民も考える必要がある。
- ・ 大人になって就労し、何度も失敗体験を繰り返した時に、本人・家族は育った環境を振り返り、時に人をうらむことになる。「自分を支えてくれた町」になることが清水町の強みになると思う。